



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

定年間近の方々のキャリア研修は、研修会場のあちらこちらで談笑したり握手をしたり、
同年代の方々が久しぶりに一同に会して、ちょっとした同窓会のような空気感です。
ということで…今回のテーマは「感謝の思い」

最長5年間の再雇用期間を有効な時間にしていただきたい。
そんな願いとともにキャリア研修は始まります。

今までの時間を振り返り、自身の働き方・生き方を見つめてもらうと
表情が生き生きとしている受講者から共通して出て来るワードは、「感謝の思い」です。

ある受講者は振り返りの個人ワークをしながら涙ぐんでいました。
東日本大震災のとき、その受講者の赴任地は被災地のど真ん中だったとのこと。

震災後、つらくてもう辞めようと思ったとき、取引先の方からの励ましの言葉で生き返った…
グループ共有の場でこの受講者はそう話して又涙ぐみました。

「振り返ってみると感謝の思いしか出て来ない」生き生きとした表情でこの受講者は言い切りました。

定年間近の方々、そして再雇用者の方々向けのキャリア研修は、
自身の足跡を振り返って「感謝の思い」を再確認する場にしたいと願っています。

さらに、再雇用の5年間でただ単に「無難に乗り切る」のではなく、
その後に続く長い人生に役立つような助走期間にしていきたい、そう願っています。

再雇用後の人生を深く考えると、多くの受講者はエネルギー感がアップします。
このエネルギーをしっかりと会社の後進に伝えることは、その会社の未来に大いに役立つ、私はそう思います。

定年間近の方々、再雇用の方々向けに研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで熱いカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

とある管理職研修にて。
一生懸命に考えた自組織のビジョンを発表する時間です。
実直で生真面目タイプ、A課長の順番が来ました。
やや緊張の面持ちで発表したA課長のビジョンは、グループ内での評価が低くダメ出しの連続…
A課長の表情が曇っていきます。
ということで…今回のテーマは「好き！というエネルギー」

A課長は登山が趣味とのこと。
お昼休みの時間、毎日欠かさないというトレーニング内容について
A課長は活き活きとした表情で私に話してくれました。
でも、この発表後の休憩時間、A課長はすっかりしょげ返った表情で私に話しかけてきました。
「私のビジョン、みんなは長くて分かりにくいって言うんですよ。そんなに長いですかね？」
そこで、私は伝えました。
「唐突ですけど…登山をしている時のAさんってどんな人なんですか？」

え？
という表情を見せたAさんは登山をしている時の自分は、粘り強く、我慢強く…
そんな感じですかね、と少し照れた表情で伝えてくれました。
私は聞いてみました。「いいですね！その登山の時のAさんだったらどういう風にビジョンを描きますか？」
なるほど…と呟いたA課長の表情が力強く変わっていきます。
「何だか理屈っぽく考え過ぎていたみたいですね。よし！ビジョンを作り直します。」

好きなことをやっている時、人は周囲を巻き込むエネルギーを出します。
好き！というエネルギーを使わない手は無い！私は、そう思います。

私は自分の仕事が好きです！
2019年も研修・映像をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にお声かけください。

原理原則を大切にしたいシンプルで熱っ苦しいカリキュラムを魂を込めておつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

とある管理職研修のロールプレイングの場面にて。
部下役の方が言いました。「この仕事、苦手なんです…やり切る自信がないです。」
すかさず管理者役の方が力強く言いました。「何言ってるの！大丈夫！出来るよ！」
ということで…今回のテーマは「共感」

部下をひたすら励ます管理職の方が、どの業界にも一定数います。
多くの場合、とてもエネルギーに部下を励まして勇気付けようとしています。
励ますこと自体、決して悪いことではないと思います。
では、冒頭のようなロールプレイングの場面で、励まされた部下役の方はどのような態度をとるでしょうか？
大抵の場合、苦笑する…引きつった笑顔で下を向く…戸惑った表情をする…こういったパターンが多いように思います。
そこまでのロープレではしっかり部下役の話に耳を傾けていた管理者役の方は、
今や気持ち良さそうに、身振り手振りを加えて部下を励ましています。
でも、部下役との繋がりは残念ながら途切れている…というわけです。

仮にこの場面で、管理者が部下の「不安」に共感して寄り添ったらどうなったでしょうか？
「この仕事、苦手なんです…やり切る自信がないです。」「そうか…苦手なんだね。どんな所が苦手なの？」
きっと、勇気を出して前向きではない発言をした部下の気持ちに管理者が共感を示すことで、
部下にとっては本心を話せる安心安全な場が創られると思います。
本心を伝えることができれば、じゃあその苦手をどうやって克服したら良いと思う？
という管理者の次なる問いかけにも、部下は、前向きに自律的に考えることが出来るのではないのでしょうか。

力強く励ます管理者の方は、今までの自身の仕事でしっかり結果を残してきたタイプの方に多いようです。
結局のところ共感には部下に本質的な興味を持つこと…だと感じます。

今年は自宅の引越しが年末にあり、愛犬のオモチャ誤飲→緊急手術→入院がそこに重なり、
アツと気付いたら年の瀬でした(手術成功の時は号泣しました)。
2018年も大変お世話になりました。誠にありがとうございます。
2019年も研修・映像をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にお声かけください。

原理原則を大切にしたいシンプルで熱いカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日、とあるキャリアデザインの研修にて。
様々な演習の後、いよいよキャリアデザインを行う場面になって、ピタリとペンを持つ手が止まる受講者が一人いました。
近付いて声をかけます。「出来ることはありますか？」
受講者は硬い表情のまま言いました。「未来が描けません」
ということで…今回のテーマは「仕事とプライベート」

特に20歳代の方が対象のキャリアデザイン研修では、「会社から求められること」はスラスラ書くことが出来ても、
「自分がやりたいこと」や「会社での未来」を描けない方は決して珍しくありません。
多くの場合、こういった受講者は固い表情で未来を描くことを拒もうとします。
私はプライベートを大切に生きているので、仕事でやりたいことは特にないんです…
直接本人に尋ねてみると、このような答えが返ってきます。

しかし、もう少し詳しく聞いてみると更に2つのタイプに分かれます。
1つ目のタイプは、プライベートで何か1つのことに夢中になっている方。
このタイプの方の場合。
1つのことに打ち込める自分を「仕事でも使える」ことを理解すると、表情が和らぎ前向きな姿勢に変わることが多いように思います。
2つ目のタイプは、プライベートで夢中になっていることは特になく、仕事も特に好きではない、という方。
人生には色々な場面があります。夢中になることが何もない時期があっても、見守って応援し続ける必要かあると私は思います。

ペンを止めた受講者の男性に尋ねてみると、2つ目のタイプでした。
特に私から責められることがないことが分かった途端、その受講者は言いました。
「仕事に打ち込むことを想像すると怖くなるんです。今迄見たことが無い世界だし…」
私は嬉しくなりました。
この受講者は自己変革の扉を今まさに開けようとしているのかもしれませんが。
キャリアデザインは研修は、受講者が見ないフリをしていた自分自身に気付く時間になり得ます。

童音（どおん）は、本質的な場を創りたいと願っています。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

とある研修にて。
全国各地から集まった受講者は初対面同士。
グループで分けられた各島では誰も会話をしません…。
大変に硬い硬い雰囲気の中、研修が始まります。
ということで…今回のテーマは「有効な自己紹介」

硬い雰囲気はせっかくの学びや気付きを阻害します。
そんな時は自己紹介に一工夫が必要です。
弊社では、予め用意した語群から「ありたい自分」を表現する言葉を複数選んでもらい、
その言葉をイメージしながら、グループ内で1人ずつ自己紹介をしてもらいます。

1人の自己紹介が終了したらグループ仲間が
自己紹介をした人から伝わって来た感じを語群から選び、本人に伝えていきます。
初対面のグループ仲間から、自分の与えたインパクトを言葉で伝えられると、
伝えられた本人は心底嬉しそうな表情に変わっていきます。
不思議なもので、1人が笑顔になると笑いが生まれ、
笑いが生まれるとお互いに人として興味を持ち始めます。

魂が触れ合う瞬間です。

とてもシンプルな方法ですがこの自己紹介を行うと、全員が伝え終わった頃には
既知の友人同士のような空気感に変わっています。
自分の「人となり」にスポットを当ててもらうと人は嬉しいんですね。
場の空気が彩り豊かだと、グループ内の対話も弾み本質的な関わりが増えていきます。

童音（どおん）は、本質的な場を創りたいと願っています。
研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

「目的」と「目標」の違いは？
「目的」と「目標」の関係は？

とある研修にて、受講者の方々にグループで話し合っ、発表してもらいました。
多くのグループで意見が分かれ、改めて聞かれるとよく分かっていなかった、という声が多く聞かれました。
ということで…今回のテーマは「目的と目標」

あるグループの発表では、
目的とは…目標達成の為にやるべきこと
目標とは…実現させたい最終目標
残念ながらこれは、勘違いをした解釈ですが、発表では大変多く見られた意見でした。

正解は、
目的とは…最終的に目指すもの・使命感を持って取り組むもの・願い・意味・意義
目標とは…何をいつまでにどのように行うのか？といった具体的な道しるべ。
イメージとして、
目的は、坂道の先に輝いている太陽。
目標は、坂道の途中にある道しるべ。
坂の途中にある道しるべ(目標)だけを見ていると、
つつい義務的で受動的な、重圧を感じてしまうことがあります。

しかし、顔を上げて坂道の先にある太陽(目的)の輝きを感じると、
身体の内側からエネルギーが湧き出て来ます。
目的(太陽)と目標(道しるべ)をバランスよく見て、仕事の、人生の坂道を登りたいものです。
直近の目標は見えていても、案外、目的を見失っている人は少なくないと思います。

童音（どおん）は、人が目的を思い出せるような場を創りたいと願っています。
研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日とある企業様でコミュニケーション研修を行いました。研修終了後、1人の受講者の方が私のもとに来られました。
「私は素の自分が嫌いです。だから素の自分を出さず演じた方が楽なんです…」
どこか苦しげにそう伝えてくれました。
ということで…今回のテーマは「素の自分」

誰でも、人生において色々なコミュニティに属していると思います。
そしてそれぞれのコミュニティにおける「役割の顔」があると思います。
例えば、会社では…課長の顔、顧客の前では…会社代表の顔、家族の前では…親の顔
夫婦では…配偶者の顔、親の前では…子の顔、趣味仲間では…友人の顔、近所では…良き近隣者の顔

もし、コミュニティごと、素の自分ではない「お面」を付け替えて、それぞれの顔を懸命に演じていたとしたら、
いつしかお面を取ったのに素の自分の顔が分からなくなってしまう、本来の自分が大切にしているものが見えなくなってしまう、
周囲に合わせることばかり優先してしまう…そんなことが起きるかもしれません。
それは、とても怖いことだと思います。
人は、素の自分、本来の自分のときが最も人と繋がりやすいと思います。それは、とても自然だからです。
ただ、何者かを演じることに慣れてしまっていると、素の自分、本来の自分でいることは、ある意味勇気が必要かもしれません。

研修後に来られた男性は、素の自分が嫌いだと伝えてくれました。
私は、どこが嫌いなんですか？と尋ねました。そうすると、いくつか自分の嫌いな項目を挙げてくれました。
もう一つ。こういう自分でいたいな、という自分は？と尋ねるといくつか挙げてくれました。
嫌いな自分。こうありたい自分。二つを比べてみると「対」になっていました。
【嫌いな自分】 他人に気を遣い過ぎる
【ありたい自分】 大らかな心を持った自分
どちらが素の自分に近いのですか？と尋ねたらしばらく考えた後、【ありたい自分】です、と答えが返ってきました。
続けて男性は、「自分で選んでるんですね…」と仰いました。
単に周囲に反応するのではなく、自分で自分を選択する。とても大切なことだと思います。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日とある企業様で「自分のWhy」という演習を行いました。
研修終了後、1人の受講者の方が私のもとに来られました。
「自分のWhyの種が見つかりました…！」
ということで…今回のテーマは「自分のWhy」

現在何の仕事をしているか？というWhat、
どのように仕事をしているか？というHow、
これらは通常、多くの方が答えられると思います。
しかし、何故あなたは今の仕事をしているのか？という自分のWhyでは
直ぐに答えが見つからず、戸惑う方が珍しくありません。
自分のWhyの中には、自身の仕事への願いや自身の存在意義、
仕事の意味がギッシリ詰まっています。
自分のWhyは、どこかで借りてきたキレイな言葉ではなく、本物の、純粋な、
自分だけのものがあると私は思います。
人は理由があることはやり続けられるので、自分のWhyは永遠に追いかけて良いテーマであると感じています。

研修後に来られた方は、自分のWhyについて考え抜いたところ、
自分が育った環境に行き着きました。
突然いなくなってしまったお父様にかわって、その方はご兄弟達の学費まで工面されたとのこと。
余りにも苦しく、辛く、今迄思い出したくなかったそうです。
でも、自分のWhyを真剣に考えたらその種は間違いなくこの時期にある、と真剣な眼差しで私に伝えてくださいました。
「余りにも重た過ぎて他人には伝えたことはありませんでした。でも今日、自分が今迄頑張れた理由がハッキリしました。」
私は嬉しくて感動して涙が出ました。

私は突然仕事のやり方が変わった人を今迄何人も見ました。
全員に共通しているのは自分のWhyが腹落ちした、という点です。
自分のWhyは自分の心のエンジンに火を付けると私は信じています。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。





お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日取材をしていただき、日本FP協会発行のFPジャーナル7月号（今月号）に記事を掲載いただきました。

テーマは人生100年時代です。

ということで…今回のテーマは「人生100年時代のライフプランニング」

つい5～6年前、厚生労働省の高齢者白書には人生90年時代と書かれていました。

ところが昨年9月11日には、人生100年時代構想会議が開催され、

あっという間に人生100年時代という言葉が定着した様に思います。

人生が長くなれば当然働き方も変わります。

多くの会社では副業が解禁となり個人がやりたいことを、会社の垣根を越えてやる…

つまり仕事はプロジェクト化して、会社の概念そのものが変化するとも言われています。

そのような環境変化の中、個人の生き方を真剣に応援する企業は強いのではないかと私は思います。

個人は、自分自身が企業の垣根を越えてまでやりたいことは何なのか？

自身の大切にしたいことを明確にすることが、とても重要な時代になると考えます。

明らかに、今年になってからお声掛けいただく研修テーマは

キャリアデザイン

ライフプラン

マネープラン

セカンドライフデザイン等、

生き方・暮らし方・働き方のテーマが大変多くなりました。

北米では、2020年までに個人事業主の割合が50%に達するという見通しだそうです。

時代が急激に変化するときこそ変えるべき自分、変えてはいけない自分の軸を知る必要があると思います。

童音(どおん)株式会社では、自分の軸をLife-Beatと呼び、Life-Beatを明確にする研修を行っています。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。

原理原則を大切にしたシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

とあるマネジメント研修において。
自組織のビジョンを言葉にして、皆の前で発表する…という演習を行いました。
受講者は皆、真剣に、そして一生懸命に発表を行います。
一人のマネージャーが発表を始めました。
思いを込めた一言一言が、聞いている人たちの心をどんどん捉えていく様子がヒシヒシと伝わって来ます。
場にいる全員が、発表者の言葉や思いを受け止めています。
「シーン」という音が研修会場全体から聞こえてくるほど皆が集中しています。
ということで…今月のテーマは「伝わる発表」

聞いている人たちに伝わる発表は、理屈ではなく場の空気を変えます。
では「伝わる発表」と「伝わらない発表」は何が違うのでしょうか…？
活舌が良く、表情豊かに、しっかりと組み立てられた発表は確かに聞きやすいのですが、多くの場合、場の空気までは変わりません。
こういった「上手な発表」は、聞いている側は頭で、理屈で受け止めている、という雰囲気です。
一方、話し方が決して上手いわけでもなく、澁澁と話しているわけでもないのに妙に「伝わる発表」があります。
私の感じたところではこれらの「伝わる発表」の共通要素は、

- 本気で話している
- 自然体で話している
- 発表者本人が発表内容を信じている
- 内容がシンプルである
- 照れたり胡麻化したりしていない

自組織のビジョンを発表したマネージャーも、まさしくこれらの要素を満たしていました。

「伝わる発表」は、聞き手の脳内でオキシトシン、セロトニン等のホルモンの活性化を促すようです。
「上手な発表」が出来る器用な人ほど、案外伝わる発表が苦手…ということも多いように思います。
論理的に正確に話すことはもちろん大切ですが、シンプルに伝えたいと願って話すことが「伝わる発表」を生むのではないかと感じます。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日、サイボウズ株式会社様、見学会に参加してまいりました。
サイボウズ社は、その働き方が注目され、NHKクローズアップ現代をはじめ様々なメディアに取り上げられている東証上場一部企業です。
ということで…今月のテーマは「サイボウズ社の働き方改革」

サイボウズ社のオフィスツアーでは、印象に残ったことが沢山ありました。その一つとして、一人ひとりが自分の「働き方」を会社に宣言する働き方宣言制度。
例えば、残業→必要であれば何時間でもOK、土日出勤→不可能、場所→目安月3回在宅などと、自分の働き方を会社とオープンに話し合っ決めて決めるものです。
育自分休暇制度、というものも記憶に残りました。
一旦会社を離れて、6年以内であれば復職出来るという制度、とのこと。
この制度を利用して海外青年協力隊に行き、数年後、会社に復帰された女性の実例をお聞きました。
サイボウズ社では複業が可能。
今回の説明会でプレゼンいただいた人事部のマネジャーの方も、他社で人事のお仕事を並行していらっしゃるとのことでした。
さらに、他社メインの複業もOKとのこと。
他社で活躍している人材が、サイボウズ社で「ちょっとこんなことしてみたい」が可能だということです。
キーワードは、多様性・自立。
従業員一人ひとりが望む働き方や報酬が実現されれば良いという考え方…なんだそうです。
サイボウズ社の企業理念は●チームワークあふれる「社会」を創る●チームワークあふれる「会社」を創る、まさしく、やりたいこと(理念)に対して個々人が集まってプロジェクトを組んでいる…そんな印象を受けました。さらに、従業員個々人の生き方を実現するためのツールが、サイボウズ社の商品に直結しており、従業員一人ひとりの生き様がサイボウズ社の働き方改革を推進し、同時に、商品販売促進にもつながっていると感じました。
人生100年時代のキーワードの一つに「多くの変化が当たり前になる」というものがあります。
一つの仕事ではなく、複数の仕事を並行させ、その都度学び直しながら自己主体感をもって取り組む…というものです。
働き方改革は、根本的な概念から考える必要がある、まざまざと実感した時間でした。

今回の見学会が楽しかったのはもちろんのこと。
終了後の懇親会で、今後の働き方改革について、先輩社長の意見や感想を聞いたのも大変、豊かな時間でした。
時代の変化とともに会社のあり方も変わっていくと思います。
そういう時こそ変えて良いものと変えてはいけないものの見極めが出来るようになってほしいと思います。
また、弊社はクライアント企業様の変化をサポートし、同時に変えてはいけないものに対してのサポートもさせていただきたいと強く願っております。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日、妻と二人で近所を散歩中、突然見知らぬ初老の女性に話しかけられました。
「今朝の富士山は本当にキレイね！ ごめんなさいね…誰かに伝えたくって！」
満面の笑みとともに伝えられたメッセージは私たちの心にストン！と響きました。
ということで…今回のテーマは「心に空白部分をつくる」

感動というものは、心の空白部分に入り込んでくるもの。
心の空白とは、気持ちの余裕とも言い換えられる…
これは脳科学者の茂木健一郎氏の言葉です。

初老の女性に話しかけられた日。
いつもより富士山がキレイなことに私たちは気付いていました。
「富士山キレイだね…」
「ん？ああ…だね…」
という、何とも心無い会話も交わしていました。
私たちは目の前のキレイな風景に集中出来ないほど心に空白がなく、すっかり仕事のことを考えていたようです。
初老の女性は私たちに静かで華やいたエネルギー感を届けてくれました。
一瞬にして私たちの心に空白が生まれました！

オープンカーを専門に取り扱う知人曰く、春の陽気が感じられる頃合いから、突然問合せが増えるのだとか。
やはり新しいことが始まる春の予感に触発されるのでしょうか。

春ですね！

心に空白部分をつくってワクワクしたいと思います。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

東京都に本社をおくサイボウズ株式会社様。
言わずと知れた東証一部上場のソフトウェア開発企業です。
その働き方が注目され、NHKクローズアップ現代をはじめ様々なメディアに取り上げられています。
ということで…今月のテーマは「サイボウズ社見学会のお知らせ」

通常、20万円の費用がかかるサイボウズ社オフィスツアー。
今回、私が理事をやらせていただいております日本プレジデント協会の特別企画で実施することになりました。
日程は
2018年4月26日(木) 18:00～(予定)
参加費用はなんと無料です！ ※20万円は日本プレジデント協会で負担いたします。
直接サイボウズ社様ご担当者より、
風土改革について…
チームワーク向上について…
コミュニケーションの方法…
様々なワークスタイル…
リアルオフィスとバーチャルオフィスについて…
人事部感動課の設立について…等々、
働き方改革に一石を投じるサイボウズ式の説明をいただきます。
参加費用はかかりません。
興味がある方はこのメールにご返信いただけますでしょうか。

但し、定員が決まっており、先着順とさせていただきますのでご了承ください。
※多数お申込みいただきました場合は抽選とさせていただきます。

童音(どおん)は、五感を大切に、そして原理原則を大切に、
シンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日、大変お世話になっている方にお招きいただき、初めて広島へ行って参りました。
広島は、原爆が落とされた街であり、一度この目でしっかりと見ておきたいと願っておりました。
ということで…今月のテーマは「体感」

冷蔵庫内のような冷えた空気の中、黙々と歩いていたら、不意に原爆ドームが目の前に現れました。
テレビやネットを通して何度も目にしていましたが、その存在感に圧倒されます。
直視して良いのか戸惑うほどの壊れ方は、ここで何があったのかを静かに力強く伝えてくれます。
原爆ドームにほど近い平和記念資料館へも足を延ばしました。
この街でどのような暮らしが営まれ、その瞬間何が起きて、その後何があったのか。
帰らない子どもを探して真夏の瓦礫の街を泣きながら歩き回るお母さんの手記を読み、
その顔を写真で拝見しました。
三輪車で遊んでいた女の子の写真があり、焼け焦げた三輪車が展示されていました。

私はショックで動けなくなりました。

行ってみないと分からない
よく言われるセリフですが、今回ほどこのセリフを痛感させられたことはありません。
頭で、
理屈で、
分かっていたつもりでも、
体感してみると、いかにその理解が浅かったか。
よく分かります。

自分の中における理解の質が確実に変化しました。
また、平和が、決して当たり前のことではないことを痛感しました。

童音(どおん)は、五感を大切にしたい、そして原理原則を大切にしたい
シンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

今年、最も印象的だった言葉はなんだろう…？
年末を迎え、考えてみました。
ということで…今月のテーマは「印象に残った言葉」

藤田一照(いっしょう)さんという方が、葉山にいらっしゃいます。
東京大学大学院で発達心理学を専攻中、座禅に出会い深く傾倒。
29歳で得度。
33歳で渡米。
以来17年半にわたって米国で座禅を指導。
12年前に帰国して現在、神奈川葉山で座禅の研究・指導中…という方です。
今年、数回一照さんのお話を聞く機会に恵まれました。
その中で、「規律」と「規則」の違いのお話が、とても印象に残っています。
一照さん曰く、規律とは、自分の内にあるルールで自律的に引き受けるもの。
規則とは、外にある決めごとであり他律・戒律である。
もともと日本人は「自分を律する」と言われていたが、
それは、自分を律すると得をするから…ということではなく
美しいからだ。

弊社、童音(どおん)では規則はもちろんのこと、
自分の規律を思い出し、自律的に引き受けるきっかけをつくりたい。
研修の時間を、気持ちが震えて心が耕されるきっかけにしたい。
一照さんの言葉から改めて自身の願いを再確認しました。

今年も誠にありがとうございます。
2018年も、原理原則を大切にしたいシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。

研修・教材作成・映像作成をご検討の際には、ぜひお声掛けください。
来年もよろしくお願い申し上げます。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

とある研修での場面。
受講者の一人が、緊張感もないままに頻繁にスマホを見ます。
見るだけではなく入力をしています。仕事…かな？私は尋ねました。
「それは仕事ですか？」
尋ねられた受講者はあきらかに動揺しながらスマホをしまいました。
「すいません…」
良い意味での緊張感を研修で作り出せない自身の力不足を痛感する瞬間です。
ということで…今回のテーマは「自意識を取り戻す場」

研修は日常を離れて考え、学び、感じる時間です。
スポーツの試合は「タイム」がありますが、人生にはタイムがないので立ち止まって考えられる
とても貴重な機会だと私は思っています。
最近、研修中にスマートフォン等を見る方が増えているように私は感じています。
研修中にスマホを見る方は、ある意味習慣になっている人も多くいるように思います。
何故そう思うかというと、指摘をすると、一様に「驚く」からです。
人は自意識がないまま「自動的に動く」時間がとても多い…ロシアの思想家、グルジェフは言いました。
研修は、色々なマインドやスキルを学ぶ場ではありますが、「自意識を取り戻す場」であり、
人生には掛け替えのない時間だと私は思います。

自意識を取り戻して自分の人生のハンドルを握る（自分の人生を生きる）ことは、とても大切だと思います。
人生のハンドルを本気で握ると、ハンドルの「遊び」の大きさに戸惑います。
自分で考えてやって良いのだ…というある種の自由さ（遊び）です。
戸惑うからこそ、考えるし、苦しむし、楽しむし、喜ぶし、悲しむし、
だから、生きている実感が湧くのだと思います。
私は研修を「自意識を取り戻す場」にして、
自分の人生を本気で生きるきっかけにしたい！そう思っています。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

この春、新入社員研修や新任役職者研修にて多くの方々との出会いをいただきました。
…あれから約半年。
フォローアップ研修で多くの方々と再会できました。
ということで…今回のテーマは「毎日を丁寧に過ごす」

たかが半年、されど半年…！
フォローアップ研修で再会した方の中には、驚くほど変化をしている方がいらっしゃいました。
変化したのは表情…その中でも特に「目付き」の変化が印象的です。
半年を振り返るワークで漏れ聞こえてくる言葉を聞きながら思うのは、
「目標を持って毎日を丁寧に過ごす」
変化の源はこれに尽きるのではないかと感じました。
大きく変化した方は、
「やられている」のではなく「自律的」に自身の目標を持ち
日々を振り返り、行動を改善しているのが分かりました。

脳科学者の茂木健一郎氏によりますと、人は体験したことを脳の「側頭葉」に蓄積、
自分が目指していることに役立つ体験情報を、側頭葉から取り出して活用するのだとか。
つまり、●●を目指す！という意欲に体験を掛け合わせたものが、その人の前に進む力として育って行くそうです。
目標を持って毎日を丁寧に過ごす。
フォローアップ研修で大きく変化した方々に再会して、改めてその大切さを実感しました。

春の研修で、大丈夫かな…？と心配になった方が、弾けんばかりの笑顔で研修会場に入ってくると、本当に嬉しくなります。
人は変わりますね。
人は変われると思います。

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルなカリキュラムを全力でおつくり致します。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

弊社の事務所は横浜スタジアムから400mほどの距離にあります。
プロ野球、横浜ベイスターズの本拠地ですね。
本日(10/1)横浜スタジアムではCS進出をかけたベイスターズが広島カープとの大切な一戦。
開け放った窓からは、横浜スタジアムの観客が発する大声援…というよりは地鳴りが響いてきます。
ということで…今月のテーマは「人間も動物」

ジェットコースターが側を通ると、物凄い轟音が鳴り響きます。「ゴー！」というあの音ですね。
駅のホームを新幹線が通過する時の音にも似ています。
横浜スタジアムで試合の日は、あの音にそっくりな音(歓声)が関内の街に鳴り響きます。
本能的に恐怖を感じる位の音圧に最初は本当に驚いたものです。今日は何時もよりその音圧が激しいような…。

仕事を終えて関内駅への道すがら。
ベイスターズのユニフォームを着た沢山の方々とすれ違います。ベイスターズは勝ったのかな…？
信号待ちで対面のベイスターズファンの表情を確認すると…ベイスターズは勝ったな、と確信しました。
話し声は一切聞こえませんが、身体全体から嬉しい！というオーラが湧き上がっています。
はたして、関内駅前ではベイスターズCS進出！という号外が配られていました。
ベイスターズファンの皆さま、おめでとうございます！
※CSとは？
クライマックスシリーズの略。
プロ野球で1年間戦った結果、1～3位のチームが再度CSにおいて対戦。
勝利チームが日本シリーズへ進出する制度。

研修では、言葉以外に相手から伝わる情報の大切さについてもお話します。
人間も動物なので、よく観察すると内面がダダ漏れしていることも珍しくありません。
人間はたまたま言葉が使えるから言葉に頼りがちですが、案外言葉以外の情報の方が真実に近い情報を発していることもあると思います。
だからこそ、上司は朝一番、部下の目を見て挨拶をすることが大切だと思います。
部下は全身から、その内面の情報を発しているかもしれません。

コミュニケーション、リーダーシップなどに課題をお持ちの場合、ぜひ弊社にお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

2007年生まれの子どもの、つまり現在の小学生たち。

この子どもたちの半数は、何歳まで生きるのか…？

答えは107歳、だそうです！

栄養・医療・教育・テクノロジー…色々な分野の状況改善で過去の200年間、平均寿命は10年に2年以上のペースでのびてきた、とのこと。

現在の子どもたちは勿論のこと、もはや20歳～40歳代の人たちも今までの考え方では「逃げ切れない」時代なのでしょう。

こんな衝撃的な書き出しで始まるのが、昨年来売れて続けている「LIFE SHIFT 100年時代の 人生戦略(東洋経済新報社)」

ということで…今月のテーマは「自分への知識」

バカ売れしているこの本はそのタイトルが示すとおり、長寿化が途方もない変化の激流をもたらし、あらゆることに影響を及ぼすことについて書かれています。

例えば、教育→仕事→引退という3つのステージは崩壊。

65歳で仕事を引退してもそのあと人生が50年続くのでは、経済的に難しいことは明らかでしょう。

長くなった人生の中、人は仕事をしながら学び直し、

また違う仕事をして、というような色々なステージが入り混じったマルチステージの時代が到来し、

変化の多い人生においては、人は自分が何者なのか？

という「自分への知識」が大切になる、と著者のリンダ・グラットンが説いています。

長〜い人生の中、自分が何を大切にしたいのか？

自分の価値観が分かっていないとマルチステージの人生においては、統一感の無い生き方になってしまうということだと思います。

だからこそ、今後は今まで以上に「自分への知識」が欠かせない世の中である、ということだと感じます。

先々月の7月27日。

日本FP協会、パーソナルファイナンス教育のシンポジウムにて、

日本FP協会専務理事の伊藤宏一先生も、長寿化の影響について「LIFE SHIFT」のお話をされました。

ライフプランのお手伝いをするファイナンシャルプランナーのシンポジウムで、このような発表がされたことは、とても大きな変化だと私は感じました。

弊社では「自分への知識」を深める、自分の価値観を5つの言葉にする自芯セミナーを行っています。

自分の価値観を5つの言葉にする効果をぜひ一度ご体験ください。

童音（どおん）株式会社では気付きや学びを身体で感じる研修・教材作成・映像作成を目指しています。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

「話をそっちへ持って行くからあとがやりにくいんだよ～！」
ロールプレイングが終わったあとに、一人の参加者が笑いながら仲間に声をかけました(笑顔とはいえ真剣です)。
声をかけられた男性は、誠に申し訳ない、という表情をしています。
リレー・ロールプレイングはなかなか思った通りに行かず、ロール終了後に仲間同士の会話が自然に始まります。
ということで…今月のテーマは「リレー・ロールプレイング」

特に営業職の研修ではロールプレイングを取り入れることが多くあります。
ロールプレイングは顧客役が大切であり、現場で起こりがちなことを再現する必要があります。
とはいえ、研修の受講者同士で行うロールプレイングは、得てして予定調和で進みがちです。
とりあえず無難な形で終わらせた方がお互いに良いよね・・・といった所でしょうか。
そこで弊社ではリレー・ロールプレイングを頻繁に実施しています。
顧客役が1人、皆の前に出てもらい、それに対して営業職役は各グループから1人ずつ。
代表者を選出して順番に前に出て来てロールプレイングを行います。
あたかも1人の営業さんが商談を行っているように、ロールプレイングをリレーする進行です。
しかし、複数人が関わるため商談が思わぬ方向へ転がったり、言おうと思っていたことを先に言われてしまったり。
リレー・ロールプレイングはなかなか自分1人が思い描いたようには進みません。

営業現場では、自分が思ったように進まないことが、当然のごとく多々発生します。
そんなとき、どのように対処するのか？
リレー・ロールプレイングは予定調和に終わらない分、対応力が養われます。

リレー・ロールプレイングで前に出て来た営業の方は、多くの場合とっても緊張しています。
会場全体が前で行われているロールプレイングに集中して緊迫した空気です。
各グループでは、「やばい！この資料使えよ！」とか、「あの話法を使った方がいい！」
等々…真剣なアドバイスが飛び交います。

営業職のスキルアップに課題をお持ちの場合、ぜひ弊社にお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

研修において、現在、自身が感じているコミュニケーションの課題を挙げていただく場面があります。
その際、多くの方から「傾聴」に関する課題が挙がります。
傾聴の課題の中でよく出て来るものとして、「相手の話を聴き過ぎてしまう」というものがあります。
ということで…今月のテーマは「傾聴」

「聴き過ぎてしまう」とはどういう状態ですか？と私が尋ねますと、
話を聴いているばかりでこちらから何も出来ず、結局話題が盛り上がらない…というような主旨の回答が多く返ってきます。
なるほど…多くの場合、実は人は他人の話をキチンと聴いていません。
例えば…上司と部下が話している場面。部下の相談に対して、いち早く解決策が心に浮かんだ上司は心の中でつぶやき始めます。
そうじゃない…前に伝えたのに…何て言おうか…この時点で既に上司は部下の話を聴いていません。
何となく耳に入ってくる単語を自分都合の良いようにつなげて組立てている状態かもしれません。
つまり、スポットライトは自分の心の声に当たっており、目の前の話している部下には当たっていないのです。
このように聴くということに集中することは実はとても難しいものです。

研修で「傾聴」の具体的なスキル習得と、実際に体感出来るワークを行うと、
受講者の方々の他人の話を聴く姿勢は、劇的に変化します。
そして、しっかりと傾聴してもらった受講者は、実に嬉しそうです。

多くの場面で人は「傾聴」に徹することが出来ず、相手をコントロールしようという意識が働きます。
すると、自分自身に意識が向いてしまい、傾聴が出来なくなってしまいます。

「相手の話を聴き過ぎてしまう」というのは、どこかで相手の話を遮って自分の話をしよう、という思いがそうさせており、
その時点で既に傾聴が出来ていない…ということだと思います。

私は研修で、傾聴のスキルは仕事だけではなく配偶者に、お子様に、人生のパートナーに、親御さんに、ぜひ使ってくださいと伝えています。
しっかり聴いてもらえる他人を人は信頼します。
傾聴は本来、とってもパワフルなものです。

コミュニケーションに課題をお持ちの場合、ぜひ弊社にお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

横浜のとある喫茶店。私の近くの席に若い女性と年配の女性が座りました。2人の間にはただならぬ雰囲気。

若い女性の話は仕事に行き詰まった苦しい胸の内でした。聞いたら悪いなと思いながら、彼女の切羽詰まった表情が気になります。

ということで…今月のテーマは「部下の表情を見る」

一通り若い女性が話すと、おもむろに年配の女性が話し始めました。話の内容から、年配の女性は若い女性の上司でした。

上司の女性は質問を織り交ぜながら部下の話を引き出そうとします。

上司:「以前、私が伝えた言葉覚えてる？」

部下:「店長は…~~XX~~と仰いました。」

上司:「それじゃない。」

部下「……」

沈黙に耐えきれなくなった上司の女性は、堰を切ったように話し始めました。

上司:「いい？私はね…」

ものの数分で、若い女性は泣き始めました…。

もっと部下の話を聞いてあげれば良いのに…。

もっと部下の表情を見れば良いのに…。

もっと部下を待ってあげれば良いのに…。

上司は気持ちよく、そして一方的に自分の伝えたいことを伝え終わりました。

きっとドラマ等では、こういったシーンでこういうセリフを部下が言うんでしょう。

「ありがとうございます！私もう一度頑張ってみます！」

でも現実には違いました。

部下は話し始めた時よりもさらに固い暗い表情で言いました。

「でも、今はむりです。時間が欲しいんです…」

部下は表情で、全身で訴えていたのに、上司の女性はそこを見ていなかったようでした。

以前の澁刺とした部下の幻影に語りかけていたように見えました。

部下を受け入れて聴くことは、そんなに簡単なことではないと思います。

上司の慔然とした表情を横目に私は喫茶店を出ました…。

リーダーの部下との関わりに課題をお持ちの場合、ぜひ弊社にお声かけください。

原理原則を大切にしたいシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

新社会人の季節です。とある新人研修の場。
なぜあなたはこの業界を選んだのか？率直な動機をスピーチしていただきました。
ということで…今月のテーマは「会社のWhy」

この業界を選んだ「本音」を聞かせて欲しいと、私はリクエストしました。
その結果、今の業界を選んだ明確な理由があった方は、半分にも満たないものでした。
選んだ理由は、
例えば、福利厚生…
例えば、社風…
例えば、安定…
半分以上の新人さんは、「結果として」今の業界を選んだ…
ということでした。
こういった選択が悪いと私は全く思いません。
しかし自身の就職した会社（業界）が、何を以ってして世の中に貢献しているのか。
その存在理由は何なのか。
これを噛み締めないまま現場に配属されるのは、言われたことをやる「作業人」を排出することになるのでは…
と思います。

会社にはその生業によって世の中に貢献する、という存在意義があります。
社会人になるということはその生業を通して、その生業の一部の仕事を担って世の中に貢献する、ということだと思います。
そこに、仕事への願いや自身の存在意義が生まれると私は思います。

新人研修は、会社で何をするのか？どうやってやるのか？ということに偏ってしまうのは仕方がないと思います。
肝心要のなぜこの会社（業界）は世の中に存在しているのか？という会社のWhyは、案外新人研修の盲点という気がいたします。

会社のWhyを意識することは内発的動機付けに繋がりますと感じます。

研修をご検討される場合は一度、ぜひ、童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

この四月、私の娘が就職をしました。
生まれたばかりの娘に「楽しい人生にしようね」と、
話しかけたことがつい昨日のことのようです。
自分でやりたいことを見つけて歩き出した娘には、
仕事もプライベートもまるごと楽しんで欲しいと願っています。
ということで…今月のテーマは「ホールライフバランス」

キャリアデザインやライフプランの研修をやらせていただく機会が増えています。
私は、仕事とプライベートを天秤にかけてバランスをとるワークライフバランスではなく、
人生をトータルで考える方が理に適っていると感じており、これをホールライフバランスと呼んでいます。
人生を誕生日のときに食べるホールケーキのように丸いものとしたら、
「仕事」というピースだけ切り分けて美味しくしようとしても難しいでしょう。
人生というホールケーキの真ん中には、その人が生きて行く上で大切にしたい価値観があると思います。
その価値観に気付いて、意図してその価値観を使うことで、
仕事もプライベートもまるごと楽しい、そして納得感のあるものになるのでは、と感じています。
とはいえ、自分の価値観を説明することは案外難しいもの。
弊社では自分の価値観を5つの言葉に落とせる「自芯セミナー」で、
自分の価値観を実感していただくことを目指します。

この春、新入社員の方々にぜひ自主性を持って欲しいという願いをお持ちでしたら、
弊社の「自芯セミナー」をご検討ください。

研修をご検討される場合は一度、ぜひ、童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたシンプルで心に残るカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日の研修中、受講者の中堅社員の方が発言されました。
「私は上司からお前のお客さんは誰だ？と聞かれたとき、上司や同僚です、と答えました。
仕事で皆に迷惑かけたくないから、普段気にしている相手は上司や同僚です。」
この発言を聞いて私はなるほどなあ、と唸ってしまいました。
ということで…今月のテーマは「顧客視点」

この研修のクライアントは、いわゆる企業を相手にして商取引を行うB to B企業です。
とはいえ最終的にそのサービスを受け取る方は一般の消費者であり、この発言をされた中堅社員の方もそこは理解していました。
現在多くの企業が、顧客第一主義とか顧客満足度を大切に、といった目標を掲げています。
しかし現場で働いている社員の中には、理屈では顧客の存在を理解していても、感覚的には顧客の視点を全く持てていない…
という方が珍しくないように感じます。
顧客視点をイメージ出来るようなワークを進めて行くと、ああ！なるほど…！すっかり忘れていました…確かにそうですね…
といった反応が出て来ます。

私は誰の役に立っているのか？
私は誰の役に立ちたいのか。
そのことを確認したり思い出したりするだけで、行動する理由が見つけれられるように思いました。

テレビ東京系列局に和風総本家という番組があります。
番組内では、強面の職人さんが作った道具を使っている方が、その職人さん宛にビデオメッセージを送るシーンが放映されることがあります。
この道具はとても使いやすくて最高です！というような感謝の内容のビデオです。
大ベテランの職人さんでも直接顧客の声を聞くことは珍しいのかもしれませんが。
強面の職人さんでも、その感謝のメッセージに涙ぐんで喜んだりします（私もテレビの前で大号泣です）。

顧客視点は、人は本来他人の役に立ちたいという本能を刺激するのだと思います。
顧客が見えなくなったり、忘れていたのならば、こんなに勿体無いことはないと感じます。

研修をご検討される時期かと思います。
一度、ぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで楽しめるカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日のとある企業研修、若い女性の方が皆の前で、「私は管理職になりたい！」と高らかに宣言しました。

その女性が管理職になりたいと思ったきっかけは、実にシンプルであり感動的でした。

そのきっかけを全員の前で共有してくれた彼女は、とても力強く、自信に満ち溢れているように見えました。

ということで…今月のテーマは「認知のパワー」

ある日、彼女は勤務先の店舗で知らない年配の女性に声をかけられたそうです。

「あなたはいつ見ても本当にハツツとしていて良いわね～。あなたを見ると元気になるわ！」

彼女自身、その年配の女性をお客様として認識出来ていなかったとのこと。

自分が知らないうちに私を見てそんな風に感じてくれている方がいたんだ…！この体験は彼女にとって衝撃だったようです。

この年配の女性の言葉はまさしく「認知」そのものです。「認知」と「ほめる」は別物です。

ほめるとは、事柄に焦点を当てて相手を認めること。例えば「この包装の仕方、良いね！」

認知とは、その人となりに焦点をあてて相手を認めること。

例えば「君は人への気遣いに溢れているね！」

年配の女性は、彼女の仕事の内容をほめたのではなく彼女の人となりに焦点をあてて声をかけました。

まさしく認知です。

認知のパワーは測りしれません。現に彼女の生き方を変えてしまいました。

もし社内でお互いに認知し合うことができれば…本当に素晴らしい場になるのではないかと思います。

私自身、お店でもどこでも、人となりが素晴らしいな～と感じる人に出会ったら、

どんどん認知の言葉をかけても良いのだなと、改めて今回の研修で感じました。

私は、認知の言葉をかけてもらった瞬間、とても照れ臭くて何とも言えない気持ちになり、

後からジンワリと嬉しくなる…そんな感覚を味わいます。

そんな所まで見てくれてたんだ、ありがたいな…あ～！何か元気出てきた！やるか！みたいな感じですね。

研修をご検討される時期かと思います。

一度、ぜひ、童音（どおん）株式会社にもお声かけください。

原理原則を大切にしたいシンプルで楽しめるカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

日本プロ野球パリーグでは今シーズン、北海道日本ハムファイターズが優勝しました。

その後、色々な媒体で栗山英樹監督が優勝に関する発言をしています。

栗山監督は大変に語彙が豊富で表現が上手でいらっしゃるため、私はとても興味深く、その発言に関する記事を読んでいます。

ということで…今月のテーマは「スタンダードの変革」

栗山監督が、優勝直後のインタビューで以下のようなお話をされたのが私はとても印象に残りました。

「今全てが終わりましたけれど勝った実感がなくて…」

野球の難しさばかりが心に残ったシリーズ。僕も選手達も勉強させてもらった…」

インタビューに答えている様子も達成感や満足感からは程遠くて、戸惑いのようなものが伝わってくるように私は感じました。

その後栗山監督が、複数の媒体で語っておられた内容から、この時の「戸惑い」の正体が、私には分かったような気がしました。

栗山監督はプロ野球の選手を現役引退後、しばらく解説者をしておられましたが、

なぜ、優勝したチームが更にもっともっと強くなっていくのか、その理由が分からなかったそうです。

でも今回優勝してみて分かったこと。あ…こんな感じで優勝しちゃうんだ、

もっとやるべきことややれることが沢山あって、もっともっとやれるのに…。これで優勝出来ちゃうんだ。

それならば、今分かっているやるべきことをもっともっとやれば、きっともっと強くなれるはず…。

栗山監督のなかで「標準レベル」がグッと上昇してスタンダードの変革が起きたのでは…？と私は感じました。

スタンダードの変革が起きると、今まで満足していたレベルでは満足せず、

もっと出来るという自信と自覚が生まれるように思います。

今後、北海道日本ハムファイターズの黄金期が到来するのかもしれないね。

今年も色々とお世話になりました。

誠にありがとうございます。

来年もよろしくお願い申し上げます。

良いお年をお迎えください。

年明けに研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。

原理原則を大切にしたいシンプルで楽しめるカリキュラムを全力でおつくりいたします。



お世話になります。
童音（どおん）株式会社の山下です。
「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。

先日、上場企業様へ研修で伺いました。
研修の開始前、会場の後方席で待機していた私の隣に、
その企業の取締役の方が着席されました。
研修のオリエンテーションで受講者へお話になるとのこと。
私は何となく取締役の方と、雑談に入りました。
どういう話の展開だったか、取締役の方がバードウォッチングをされているお話に…。
私の住んでいる場所は早朝から鳥の鳴き声がとても多く、鳥の種類について興味が湧きますね、
とお話した途端、取締役の方が豹変しました。
ということで…今月のテーマは「大好きパワー 2」

とても紳士で、知的で品のある取締役の方は（失礼ながら）ほぼ少年に豹変しました。
短時間の間に、バードウォッチングのコツ、鳥の見分け方、撮影する機材、何よりもその楽しさについて熱く語っていただきました。
撮影された写真も、携帯電話を取り出して次々と見せていただきました。
見れば、お持ちの手帳の表紙も鳥のデザイン（手作りレザークラフト！）。
本当に大好きなことを人に伝えることってパワフルだなあと、先日の近所の蕎麦屋の若旦那に引き続き痛感した次第です。

この日の研修のテーマはキャリアデザインでした。
取締役の方は、自分の大好きなことに情熱を傾けて取り組むことは、
生きる上でとても大切だと受講者の皆様に語りかけていらっしゃいました。

私は首が折れるほど後方の席で頷いておりました。
大好きなこと、残り僅かな今年中に、時間を創って取り組みます！

研修をご検討の際はぜひ童音（どおん）株式会社にもお声かけください。
原理原則を大切にしたいシンプルで楽しめるカリキュラムを全力でおつくりいたします。





お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。



お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。



お世話になります。

童音（どおん）株式会社の山下です。

「研修情報通信」は気付き・学びをテーマに、今まで接点があった方へお送りしているメルマガです。